下越地区におけるニホンジカの生息・目撃状況調査

下越森林管理署　業務グループ
主　　事　　渡邉　広幸

新潟県とニホンジカの過去

●江戸時代から現代までの変遷

新潟県では、江戸時代には広くニホンジカが生息していたが、明治に入り農作物の加害獣として狩猟の対象となり、越冬地へ狩猟圧をかけたことにより、生息密度の低い状態が続いていた。

ニホンジカの目撃情報は、1978（昭和53）年度時点ではなかったが、平成に入り研究機関や行政機関などによる調査が進められた結果、徐々に生息域を広げていることが確認された。

地　域　の　概　要

●センサーカメラ設置に至るまでの経緯

平成28年に下越地区の国有林内（五泉市菅出）で、ニホンジカが目撃されたことから、2台のセンサーカメラを設置した。

その後、阿賀野川より北側にニホンジカの移動経路があるのではないかと予想し、10台増設した。

平成28年から今日までの下越地区でのニホンジカの目撃数を取りまとめ、各種会議の場で情報を提供した。

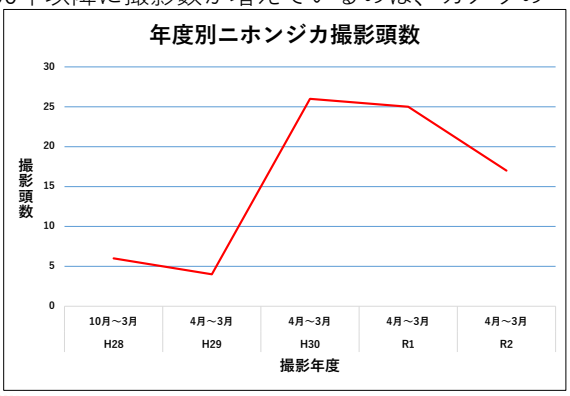
※赤の地点はニホンジカの撮影頭数が顕著だった地点。青線は阿賀野川。

右図：下越署管内のセンサーカメラの設置箇所の位置図

●ニホンジカの撮影頭数の推移

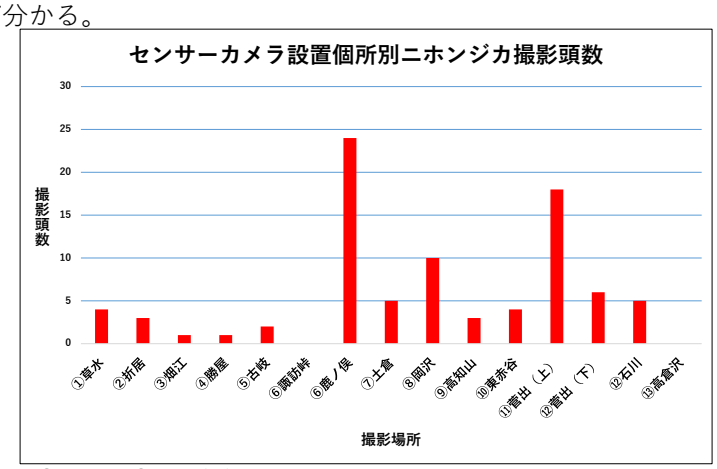
下越署管内でのニホンジカの撮影頭数の推移は下図のようになっている。平成30年以降に撮影数が増えているのは、カメラの設置台数を増やしたためである。

撮影頭数の推移をみると、まだ大幅な増加には至っていない。それぞれのカメラ設置地点で確認されているが、安定している状況である。



●設置箇所別のニホンジカの撮影頭数

設置個所別の撮影頭数をみると、胎内市鹿ノ俣（下越署管内北部）と五泉市菅出（下越署管内南部）に多く撮影されていることが分かる。



※⑥鹿ノ俣、⑪菅出（上）では、10月のオスの発情期に多数撮影されている。

増加傾向の現段階の判別

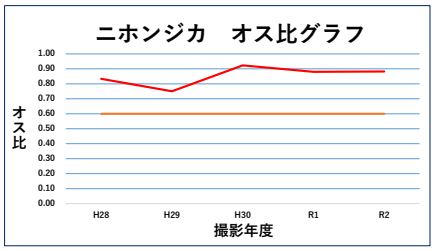
●シカ地域個体群の現状

新潟大学箕口教授の資料によると、ニホンジカは調査地の全体の頭数におけるオスの個体の比率が、0.6を下回っていれば個体の増加が危惧される状態であるとされている。

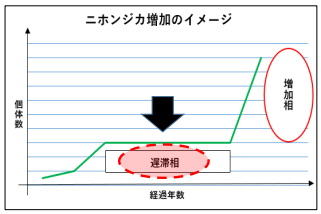
現段階では、どの年度も0.6を超えている。また、センサーカメラの地点別をみても、この基準を超えている地点はない。

撮影年度	H28	H29	H30	R1	R2
オス撮影頭数	5	3	24	22	15
雌雄合計撮影頭数	6	4	26	25	17
オス比（雄/合計頭数）	0.83	0.75	0.92	0.88	0.88

※新潟大学箕口教授の資料より

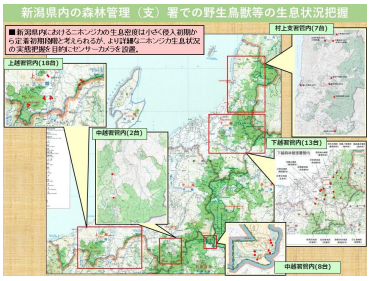


新潟県は**遅滞相**



県・市町村へ情報提供

●新潟県では、現段階において爆発的な増加傾向は見られないが、各種会議の場等を利用し、県・市町村へ情報提供を行った。



【新潟地区国有林野等所在市町村協議会】　【胎内市役所での打合せ】

国・県・市町村との連携と対策

●新潟県野生鳥獣保護管理計画＞各市町村の鳥獣被害防止計画へニホンジカの追加
●各機関、自治体との調査結果や計画などの打合せ
●各地域の協議会へ積極的に参加し呼びかけを行う。

個体数の管理
（森林被害がでる前に・・・!!）

●これからの対応・対策

現段階のメスの目撃数等からみると、爆発的な増加傾向はみられないが、新潟大学箕口教授指導のもと、新潟県や市町村及び今後設置予定の「新潟県民国連携フォレスター協議会（仮称）」などと連携し、ニホンジカの目撃情報などを注視していく。

また、国有林野内での職員による捕獲を視野に入れた「有害鳥獣捕獲のわな研修」も引き続き実施しながら、県猟友会（わなの貸出など）とも連携を図り、今後、ニホンジカが増加した場合の防除体制を整えていく。